

# 無雪期 報告書



2000年

6月～9月

ザイル一本  
生のもと

信州大学 山岳会

～ も く じ ～

戸隠山縦走	2
唐沢岳幕岩大凹角	3
常念岳	4
蝶・常念ランニング登山	5
戸隠山	6
錫杖岳前衛フェース/1ルセ	7
妙高・黒姫・飯綱	9
錫杖岳/Aニバーサリー	10
餓鬼・燕岳	11
錫杖岳前衛フェース	12
瑞牆山+一面岩	13
縦走合宿 in 北アリス 梶原隊	15
縦走合宿 in 北アリス 中村隊	22
縦走合宿 in 南アリス 野川隊	28
槍・穂高縦走	34
霞沢岳 上千丈沢	35
屏風岩 雲稜ルート	36
屏風岩 雲稜ルート	37
屏風岩 東壁ルンセルト	37
穂高 滝谷	38
穂高 周遊	39
北岳バットレス	40
屏風岩 雲稜ルート	44
裾花川 小頭滝	45
編集後記	46

## 戸隠山 (6月10日～6月11日)

- 。メンバー：L 梶原恵 (3)、岸本俊朗 (4)、宮西堅司 (1)、吉田隆則 (1)  
石岡春彦 (部外者)

### 6月10日 (土)

- |      |       |       |         |
|------|-------|-------|---------|
| 8:20 | 奥社入口発 | 11:00 | 八方眺     |
| 9:00 | 奥社    | 13:10 | 一不動避難小屋 |
| 9:35 | 五十間長屋 |       |         |

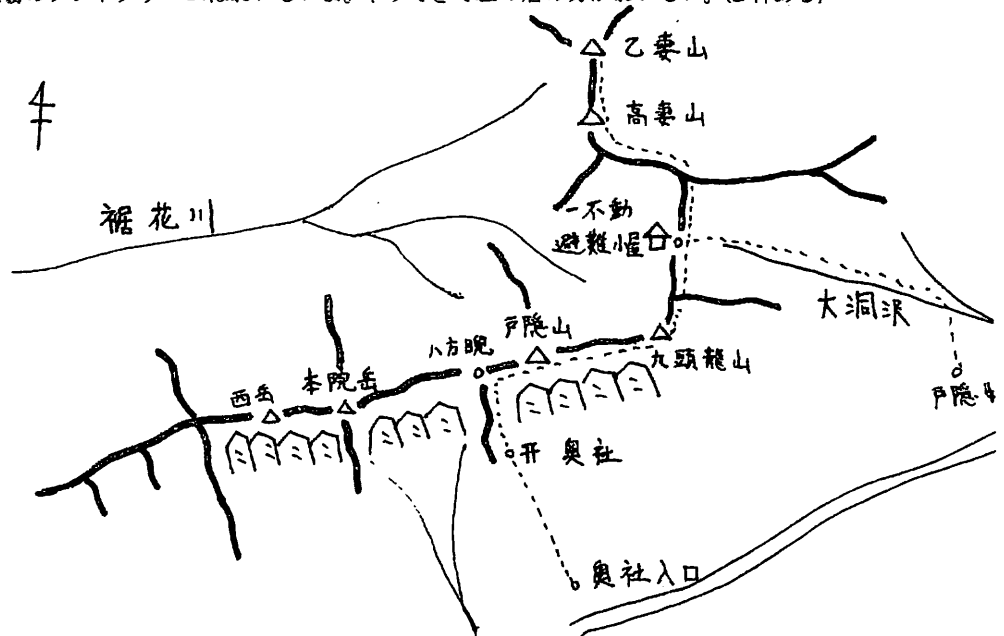
天気は悪いものの、戸隠には雨が似合う。北アのように「陽」の山ではなく、「陰」の山である。しかしそこに何か惹きつけられるものがある。奥社までは忍者が手裏剣を投げながら駆けていそうな杉の並木道。そして蟻の門渡りは身も凍る弾劾絶壁。このような山容は日本のどこにもないだろう。

### 6月11日 (日)

- |      |      |       |         |
|------|------|-------|---------|
| 4:00 | 起床   | 9:00  | 乙妻山     |
| 5:25 | 出発   | 11:45 | 一不動避難小屋 |
| 6:20 | 五地藏山 | 13:20 | 戸隠牧場    |
| 8:00 | 高妻山  |       |         |

今日は高妻・乙妻山ピストンの日。めったな事がない限り絶対に行かない所である。天気がガスっていて、何も見えずに何をしているのだろうかと考えながら歩く。途中雪渓を何度か横切り、今年の雪の多さに驚嘆。高妻・乙妻山はゆったりとしていて、晴れていたら最高の北あへのビューポイントだろう。皆さんも是非一度。

戸隠牧場のソフトクリームはおいしいよ。下りてきて左の店の方がおいしい。(2軒ある)



唐沢岳幕岩 大凹角ルート

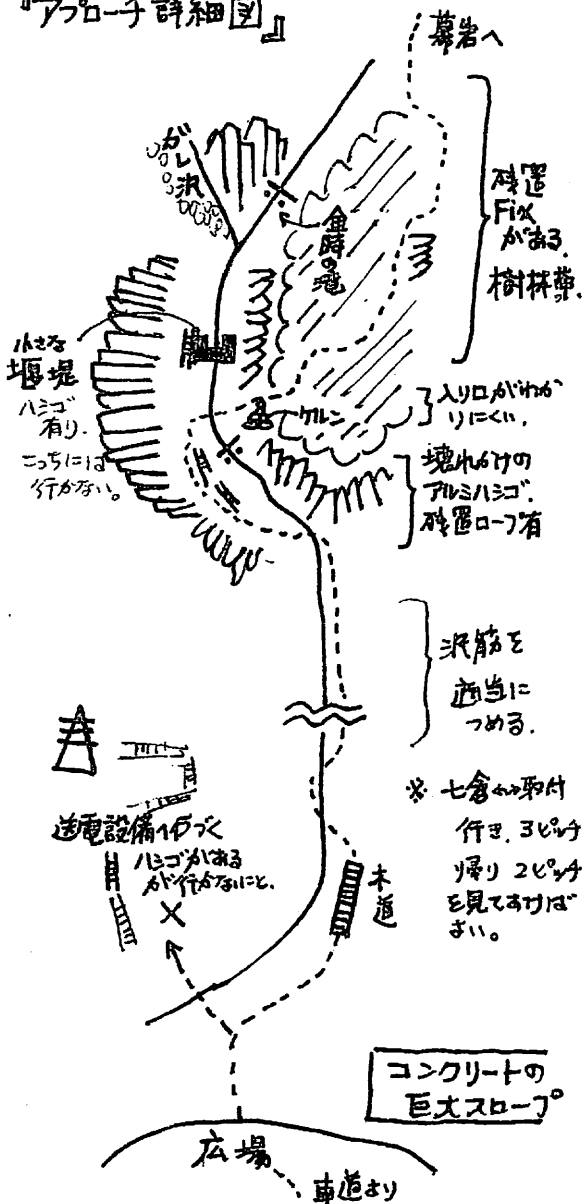
勝

メンバー：岸本（4）大木（4）横山・派（3）

期間：6月17日・18日（2+0）

17日 松本発3：00～七倉ダム発4：20～大凹角取付き着7：45  
 ～登攀開始8：00～5ピッチ終了10：15（雨のためここで下降開始）  
 ～取付き着11：20～七倉着1：45

『アプローチ詳細図』



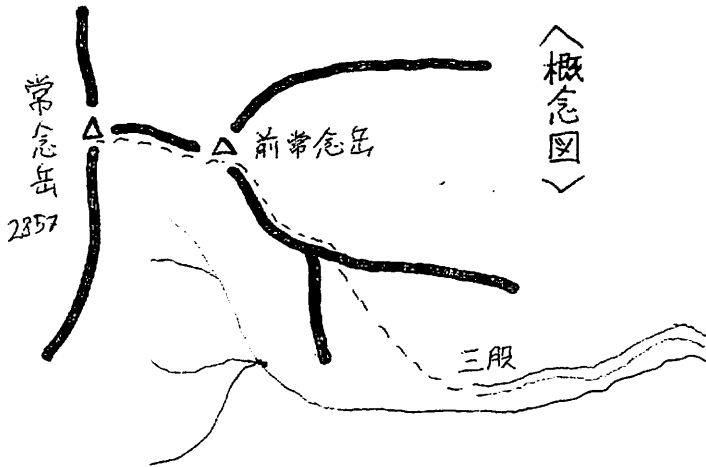
当初は「土曜日にアプローチ、日曜日登攀」の予定であったが日曜日の天気が思わしくなかったので予定を繰上げ土曜日1日でのっぼって帰ることにした。3人とも幕岩は初見参のため行きも帰りもアプローチに少々苦労した。記述を鵜呑みにしては行けない。詳しいアプローチの記述を載せるので今後の参考にしてもらいたい。ルートに関してはヌカカが多いのを除けば所々濡れているものの、支点もしっかりしていて快適だった。なお50メートルいっぱい伸ばせば1+2ピッチ、3+4ピッチと4ピッチの所を2ピッチに短縮できてよい。オールフリーでというのが当初の個人的な課題で、1ピッチ目の濡れたぬちゅぬちゅの凹角を除いてはフリーで行けたのでよかった。次回は下から上までフリーで抜きたい。大町の宿は素晴らしい。

参考文献：「日本のクラシックルート集」「日本の岩場・下」（記：岸本）

6月25日

# 常念岳 ヒストリー!

メンバー 大木 BOND (4), 林 (1), 宮西 (1)



- ◎ 4:50 三股出発
- ① 9:30 山頂
- 9:45 下山開始
- 12:00 三股着

いえ～い！常念岳だぜい。信州大学と常念岳は切っても切れない関係だ。そして6月の常念はもはや“定説”。例年のごとく「蝶ヶ岳～常念岳」一泊二日の計画を出したのだが、天候が悪く、日曜日帰りに変更した。記述するほどの出来事は別に何もなく、文字通り“暗殺”してしまふ。往復7時間、まよまよでしょう。帰りは雨が激しく降り始め、山頂から樹林帯まで一本、車まで一本、計2ピッチとランニング登山の如く、疾風の如く、駆け下って来た。帰りは当然“安曇野地ビール”♪  
 常念は冬合宿以来、約半年振りだ。  
 俺が愛する常念岳。  
 雪が舞い始めるその日こそ常念をランニング登山で何回も登る予定である。

## 常念



# 北アルプス 蝶ヶ岳 → 常念岳

～我が愛する常念岳～ ランニング登山

## ▲ 大木BOND (4). 矢野航 (1)

2000年 7月2日

《雑感》

3:00 BOX 集合  
 4:00 三股 ランニング開始  
 6:00 蝶ヶ岳 山頂  
 8:00 常念岳 山頂  
 10:00 三股 ランニング終了

トレーニングの一環として  
 ランニング登山を導入して  
 みた。コースも一番手頃  
 な三股から蝶、常念を一  
 周するというもの。

いと思っていた。ところがど、こい、矢野が来るというのではな  
 いか。「好きだなあ～」と思いがかり、まあペースも落ちるだろ  
 うか。奴を歓迎した。目標は6時間。一年にはちと厳しいかなと  
 少々心配だったが、終わってしまえばピッタリ6時間。矢野は  
 よくがんばった。下りだけではない。登りでも走れる体力をフ  
 けよう。次は登りも走りせよぜ...グヘヘ

当然誰もついてくるま

### ビバ常念

もし私が一人で行ったならば確実に5時間は切っただろう。  
 つまり、早朝に出発し、走り終わった後に1コマの授業に出席  
 するという荒技も可能である。やりたくないけど...  
 また、今後のトレーニングメニューとしては、例えば自転車で  
 三股まで往復をプラスし、さらに松本に帰ってから泳げば  
 まさしくトライアスロンである。馬力のあふれる体力がつけられる

何はともあれ、このコースは何回歩いてモ(?)すばらしい。  
 天気もよかったので、蝶ヶ岳からの稜高連峰、橋が美しく、  
 グロッキーな矢野が、蝶ヶ岳の稜線から稜高方面を見て叫んで  
 いたのが印象的だった。展望もペース配分も、何もかもが  
 もってこいなので、このコースでのランニング登山を他の人  
 にもおすすめする。

P.S. 一年生は脚力が不十分な為、下りでは逆にあまり走りせ  
 ない方がよい。膝を壊すことになる。慣れない内は上り  
 で走りせよ。(鬼?) 今回の失敗です。  
 上級生は最低5時間以内。一年生は7時間以内。

(でなきゃクビ!?)

以上 BOND

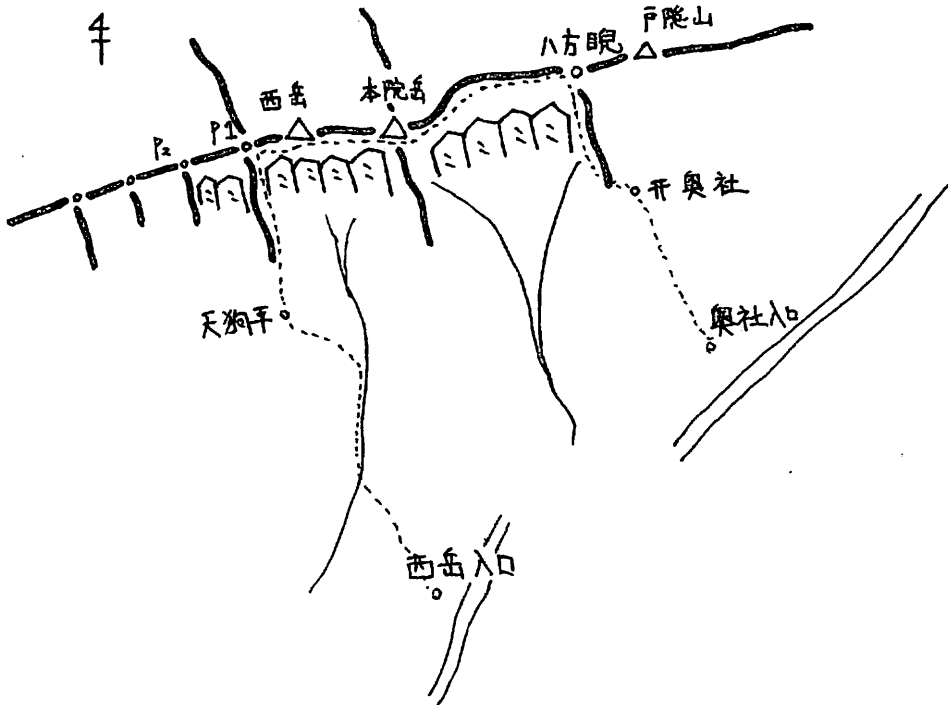
# 戸隠山 (7月12日~7月13日)

。メンバー：L 梶原恵 (3)、日高弘次 (4)、野良犬

7月12日 (水)

5:35	西岳登山道入口	11:40	八方睨
6:20	天狗原	12:30	奥社
8:35	P1		

今回の山行は冬の偵察だったのだが、冬のことを考えながら歩いていた。P1下部はかなりのラッセル。上部はキノコ雪との格闘となるだろうと思われた。思っていたほどの岩稜はなかったものの、体力勝負となるだろう。それにしても戸隠はすごい。本院岳ダイレクト尾根などは面白そう。今年の冬はいざ戸隠へ!!



## 錫杖岳 前衛フェース

山行期間：7月15日～7月16日（実動2日予備無し）

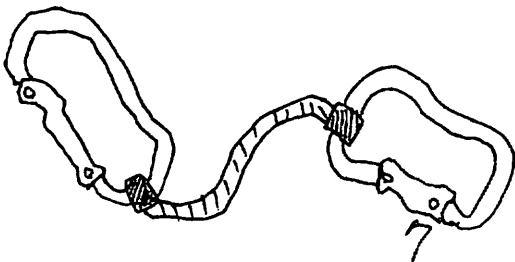
メンバー：L松寄林太郎（3年）、梶原恵（3年）、横山ジャンボ（3年）、横山ノック（3年）

記録：7月15日、3：30松本ボックス出発～5：30槍見温泉着～6：00錫杖沢出合着～9：00沈殿決定、、、、

前日から雨。梅雨よあける。新人合宿から岩トレぐらいしか山に行っていないぞ。雨でも行ってやる。ということで、3年生だけのお気楽山行。とにかく出合いのBCまで行ってみる。しかし、雨。しかも次第に雨脚は強くなって来る。錫杖沢は、激流となってテントは大丈夫か？徒渉はできるの？そんな状態でビールも流され沈殿決定。ぬれたシュラフに包まりながら4人それぞれの思いで明日を待つ。

7月16日、4：00起床～5：00出発～6：00ールンゼ取り付き着～8：30登攀開始～13：15登攀終了（ジャンボ、恵コンビは最終ピッチまで、ノック、松寄コンビは最終ピッチ手前で時間切れ敗退）～15：30錫杖沢出合い着～16：40槍見温泉着

なな～～～んと、雨が止んでいるではないか。しかも、晴れ間からお星様が、、四人で喜び勇んでいざ取り付きへ。しかし、何回来てても前衛フェースは絶景である。BCから見るそれは圧倒されるばかりだ。前日の雨で濡れたアプローチを行く。さて、取り付きに近づくと小川のせせらぎが聞こえてくる。取り付きのルンゼ部分が濡れている。ルート自体は、乾いておりもう少し太陽が出てくるまでまった。だいぶ日差しが強くなってきたので登攀を開始する。梶とジャンボが先行。ノックと後に続く。一ピッチ目、トップを行っていたノックが落ちてしまった。（詳細は別紙報告書にて）たいしたフォールではなく、ノックの登りたいという強い意志から、登攀続行。梶とジャンボがどんどん離れていくのを見ながら登る。しかし、ペースは上がらない。結局、梶とジャンボは最終ピッチまで行き、ノックと松寄隊は、無念にも時間切れで最終ピッチ手前で敗退。帰りは早いもので、前衛フェースを背に仰ぎながら、槍見温泉へ到着。恒例の露天風呂に入り、なんだか海に行こうということで男4人狭い車でいちゃつきながら富山湾経由で帰宅。上級生だけの場合、どのくらいの状態で登攀を中止するかは難しい。今回の場合、4人の考えが一致して取り付くことにした。結果的に濡れていることが原因のフォールがあった。これは自分達の判断に甘さがあったと思う。もっと本チャンの経験を積んでその場での確かな判断をできるようにしたい。そしてなによりも、僕たち同士が、もっと取り付きで話し合うべきだっただろう。



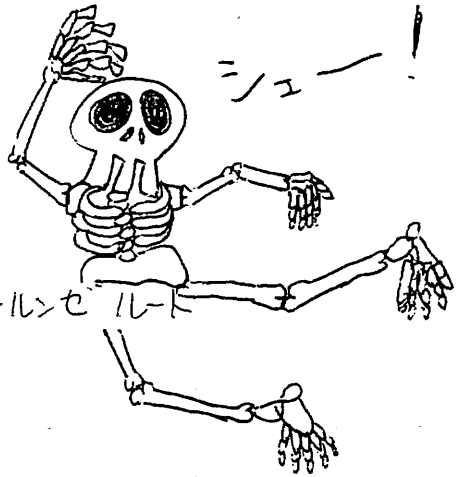


# 事故報告書

7月16日(日)

天候：小雨 / 晴れ

場所：錫杖岳 前衛 フェース - ルンセルト



## 事故の状況

ルンセルト IP 目において 横山 リド、松崎 フォローで登っている時に、リドの自分が足を滑らせ 1m くらい落ちた。すぐ下には足が付き、怪我もなく、その後も登ハンを続けた。

## 事故後の反省

日頃の岩出し不足、シーズン始めの本チャンにもかかわらず慎重さに欠けていた。(無理に行かずに AO 等をやるべきであった。) という事が反省として上がる。

これからは二度とこんな事が起きないように、しっかりと自覚しトレーニングに望みたい。

横山 光輝生 (練維2年 部歴3年)

付記) 雨で岩が濡れている状態で登攀を開始したことが大きな原因であった。

上級生だけであるという、甘さが自分の中にあつた。今後、本チャンにおいての現場判断をその場の雰囲気の流れに流されることなく、冷静な判断を下したい。

山行責任者: 松崎林太郎 (農-3 部3)

## 妙高・黒姫・飯綱山 (7月19日～7月21日)

メンバー：L 梶原恵 (3)

### 7月19日 (水)

9:40 燕温泉  
11:00 北地獄谷  
12:30 妙高山  
14:30 黒澤池ヒュッテ  
16:00 笹ヶ峰

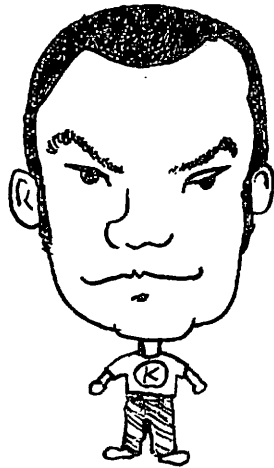
今日は火打をピストンする予定だったが、前日の飲み会によりカット。やはり独りで行くダメだ。妙高は沢は深い。なかなかいい山だった。ただし独りだったので、ずーっと熊の存在に怯えながら歩いていた。口笛や歌を歌いながら…。

### 7月20日 (木)

9:00 起床  
12:00 黒姫山  
14:30 戸隠牧場

前日に起きるまで寝ようと言う事で就寝。起きたら9時。あー、幸せ。昨日と同じように熊に怯えながら歩きつづける。黒姫のあたりはとても森がきれいだ。C・W ニコルが「森は美しい」と言うのも分かる気がする。戸隠牧場についたが、飯綱に行く気力は残されてはおらず、そのままソフトクリームを食べて下山した。たまには独りで山に行くのも良いもんだと思った。

私が  
梶原恵  
であります!!



# 錫状前衛フェース anniversary

5級/AA1+ (145m)

平成12年7月20日(海の日)

7月19日深夜槍見温泉

7月20日4時起床~7時登はん開始~14時20終了

1P目(AA1 5.7 20m)

取り付きは、左方カンテの右側のペツルハンガーの上。リスをネイリングする。すでに何登かされていて、すでにピンスカが広がっていて、小さいナッツがよく決まる。

その後、ロストアロー、ナイフブレードのタイオフ進みリスが浅くなったところで、左のリスに移りまたタイオフで進む。しかしピトンはしっかり効いているので全然安心である。

最後にエイリアンの赤をクラックに決めて、テラスに這い上がるり、右上にあるクラックを5mほど登ると、リングボルト2本の残置がある。

下のテラスにある立ち木は左から巻く方が最後のクラックのザイルの流れはよい。

2P目(AA1 5.8 20m)

左へトラバース後、キャメロットの人工で一段上へ。ここまで3手。ここからフリーで直上すると、記述通りリングボルト2分の残置。

恐らく記述にあるキャメロット#3を使った所を登ったのだろうが、難しくは感じなかった。ここから左上するコーナーに行くがフリーで行ける。

途中、フレンズ1個とナッツ1個で支点をとり、猿の腰掛けに出る。このピッチのオールフリーは容易いだらう。たぶん出だしの直上部分が5.8~5.9であり、このピッチはフリーでぬけた方が楽しいと思う。出だしを人工でいってしまったのが残念だ。

3P目(AA1 5.7 40m)

出だしのハングをキャメロット#1でこえ、その後キャメロット#0.5,0.75で支点を取り、右に一段上がるとボルト2本の残置を越え、猛烈なブッシュを越えて北沢フェースのハングしたに出る。ナッツ、カム、ロストアローで支点を作る。セカンドはフ

オローで登る。

4 P目 (3級+ 25m)

正規ルートを行かず、左のフェースへ (3級)

6 P目 (4級A1 25m) (5,8 巻可能)

出だしからリスが続いていて、ピトンは打たずにナッツとエイリアンで岩棚へ。

キャメロットの0.4番で支点を取り、濡れたジェードルをフリーで越えると

すぐ上に終了点があった。

下降

終了点から左上ぎみにブッシュを登ると左方カンテの大木テラスに出るので、そこから懸垂。

5 P目 (A1 15m)

ジーンカイトハンクを起え、キャメロットの番から巻取りハンクで走、2回リスをオロイングしていく。タイロストアローの巻しろを5。途中おとしか入時、A1/A2になるが、おかしい。ハンクを巻くまでホビヤのボール3本がある。

## 餓鬼・燕縦走

7月15日～16日 (2+1)

メンバー

2年中村圭一、野川謙介

1年佐藤祐樹、林勝也、宮西堅司、山田和輝

4時起床、5時出発、3時30分餓鬼TS

前夜、日高さんに餓鬼登山口まで送ってもらう。

火器を忘れた事に気付き、ゴロー帰松。雲行きは怪しく、大雨となり、育英テントが浸水したので、縦走中止決定。中村と山田を残し全員帰松。

しかし、途中で雨が弱くなったので、ひき返してくる。

翌朝、曇り空の中出発する。雨が降ったりやんだり嫌な天気で登る。瞬殺で餓鬼岳ピストンを終わらして、テントに潜り込む。

4時起床、5時出発、12時30分燕岳、15時中房温泉

雨は降っていないが、風が強い。途中地図と道が全然違っていた。

燕への稜線の登りの途中の雪渓で水が取れるので、2日分の水を持っていく必要無し。合戦尾根は意外と時間がかかり、結局温泉には入れなかった。

# 7月22日、23日 錫杖岳前衛フェース

LA 大木 BOND (4)、日高弘次 (4)

7月22日 (土)

松本 = 新穂高温泉 ~ 錫杖沃出合 ~ ルーゼ取り付き  
登攀開始 (10:00) ~ 下降開始 (14:00) ~ T.S (16:30)

二人共ルーゼは初めてで取り付きを採すのヒ少々時間がかかっても、先行パーティーは3パーティー。は、きりい、で澤い。我々は待ちぼうけするヒトになり、核心部を終えおまわりでけんすいすることにした。このペースで登ると下り時暗くなかりかたな。T.Sにさっさと帰りビールを飲んでのんびりする。10張りぐらゝ張、てある。明日も混雑さか予想されるので一番集りするおめにさっさと帰る。この時期の錫杖岳は大人気だわう。

7月23日 (日)

4:00 起床 = 4:50 T.S 発 ~ 6:00 左方カンテ登攀開始 ~ 9:00 終了点 (4:00) ~ 10:00 取り付き着 ~ T.S ~ 12:00 新穂高温泉

慣れ親しんだ左方カンテ。2番目と取り付き、1P目の終了点で先に行かせてもらう。つるべでサクサク登り、瞬殺す。楽しいルートだ。懸垂も問題なく終わり。10:00に終了。

そう、錫杖は取り付きから携帯が使える。つまり、ルーゼと左方カンテはローパーではなく携帯電話で話せましょうわけだ。  
まずこのことだ。冬壁でも使えると思えば強力な連絡の手段になる。  
ただし、ちゃんと“マナーモード”にしましょう。他の登攀者に大変な迷惑をかける。ハイ。

新発見! 槍見温泉は川の中がいの温泉が注いでいるあたり。微妙な湯加減でおなははXOXO也。  
美女連れの野郎がいて、なんか、妙にうらやましかた。。。  
派手露天風呂、複雑也。

以上

7/22-23 瑞州山 / 十一面岩

メンバー: 横山 勝彦(3), 中村 圭一(2)

7/22 一ヶ月前、梅雨の影響で満足に登れなかった。今回はエイドとフリー両方楽しもうというこゝで十一面岩にベースを置いて、初日エイドの練習。2日ベルジエールでフリーの予定でやってきた。一ヶ月前と比べて人は多い。岩小屋でテントを張り早速末端壁へ。ベースから1分という素晴らしい環境。氷もある。前回、春うらら1P目のみを登ったので、今回は隣のルートから春うらら1P目終了点に達して、春うらら2P目を登ろうということになった。フリーで登られているこれらのルートをエイドで登るのは完全なる反則であろうが、練習ということで目をつぶらしてほしい。もちろん、カム、ナッツのみの使用である。時間が意外とかがたが、二人にとって良い練習になった。

7/23 さて、いよいよベルジエールである。空は曇一ついい快晴。フリーでフリーだ。きのうと比べて何とギアの軽いことよ！末端壁を登ってかき沢を詰める。ケレンのある所から左の樹林帯を登ってゆくと、一目でそこはわかる。燕返しハンクの右10mほどのカンテにシュリングがかかっている。これが取付である。こゝまでベースから15~20分ほど。1P目 III A1(5,11b) 25m リド中村。カンテ〜ハンク〜フェースを登る。単調なアプローチだが、フリーでもゆける。フォローの横山はフリーで挑戦。フリーでの本気はハンクを過ぎてからのスラブチックな所。スラブに入ると3~4mであえなくAO。やはりダメ。しかし、上手い人がフリーで登らなかなか楽しそうにピッチである。

2P目 5,9 25m リド横山。スラブ。出だしは左に1~2mトラバース。そこから足をあげマントラインする所が楽しい。その上のコーナーは途中スタンスの細い所が取り手になる。無念！1ポイントバットに足をのせてしまう。ギルを信頼するしかない。

3P目 V 45m リド中村。簡単なスラブから木の生えた凹角へ。凹角は上部傾斜が意外ときつ、なかなかおもしろい。

4P目 5,9 25m リド中村。快適なハンド〜フィンガーのクランク。ジヤミングがよくなる。

5P目 5,10a 30m リド横山。有名な大フレーク。岩こゝを降りてから取付。けこう感圧的だ。途中のピートまでの下部はうまく体を使って登る。その先はシバック。爽快だ。鬼快適。楽しすぎる！カメラロケット#4は必要と喜んでいるが、特にいらぬ。というよりも上に行きすぎると、クランクが広がってしっかりきまらなくなってしまう。しかし、フォローがおちるとぶらぶらしてしまうので、しっかりきまらなくても使った方がいいかも。

6P目 5,8 30m リド横山。チムニー。下部は左のフェースを登る。上部は途中で幅がせまくなる。けこう奮闘的なスイズチムニー。閉所恐怖症の人にはタマらない。途中からは壁から半身出してスリスリと。こゝをこえれば大テラスへ。

7P目 5,8 20m リド中村。大テラスから見てもなり右のセナクルを自さして樹林帯を二入てくたく歩いて取付。ルネは快適なテラスから迷路のようなチムニーを登り、セナクルのすぐ左側をゆく。最後数m、右のクランクからスラブの所が面白い。

8P目 5,10a 35m リド横山。まず垂直のフィンガークランク。そしてくの字フレークのハンドクランク。下部は快適。右のセナクルに大きく足をあげるのが爽快かつ面白い。そこからが核心。下向きなフレークにカメラロケット#2をきめて登りたすが、足がきまらずむずかしい。くの字の屈曲点まで手が届かない。ため、くすしい。仕方なくAOでこえる。あとはラク。

9P目 II 40m リド中村。大岩をぬって立木まで。あるき。

10P目 5,9 20m リド横山。出だしのきつたクランクはなかなかジヤミングを決められ、そこを乗り越えて上のカバをよば、安心。テテテ登ってゆくと、最後2~3mのスラブが待っている。足のみ1歩のバランス。上にあかると十一面の顔である。そこからの景色はすばらしい。すべて見える。そして何とてすすぞうのは足下の不動沢。何という岩の量だよ。これは。とにかく良い山頂だ。この山頂は巻けてしまうがせむ行くこゝをすすめる。

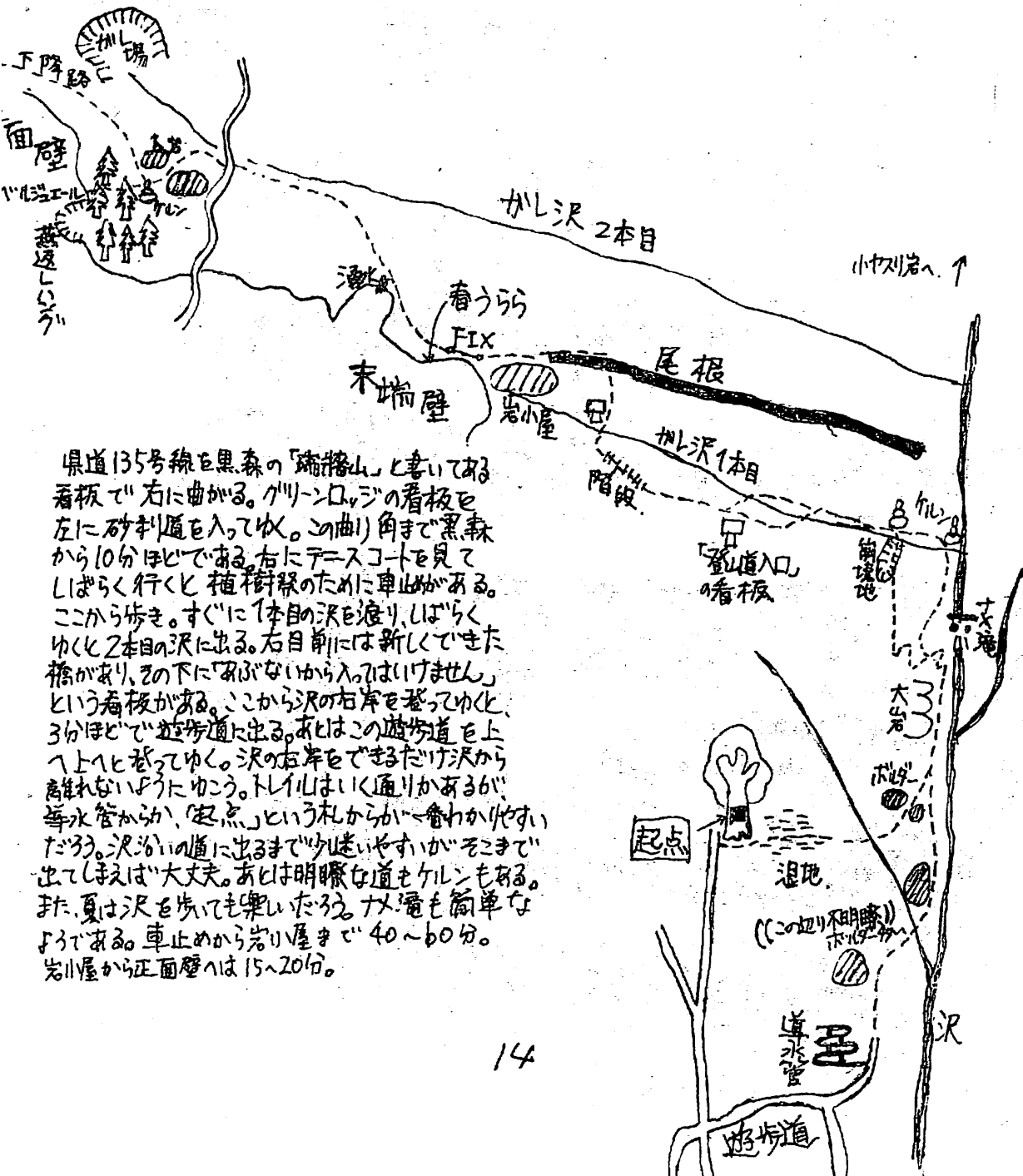
下降は東側を懸垂で。ロープがつかかりやすいので2回にわたると長い。そこから下はルートポイントに注意。コルから南にむけて急な道がある。途中5mの懸垂あり。しばらくゆくと下の沢に合流する。

このルートは、9月頃に1年生を連れていっても充分楽しめるルートではないかと思う。  
 ただしプロテクションのセットは確実に。小川山に飲きたら(飲まるか?)ぜひ  
 来るべきだろう。また、今回は計画書として提出したが、やはり微妙な場所である。  
 フリーの岩場として定着しているし、アプローチも思ったより近いが、プロテクションやスケール  
 グレードの面でやはり普通のフリーの岩場とは違う。個人的には計画書という形で  
 様々なルートを登れるようにするのが適しているように思う。ともあれ、瑞穂はワイル  
 ドなフリーの岩場である。いつの日か春うららをフリーで登ってみたい。

～ギア一覧 (バリエーション)～

ヌンチャク 8本、カラビナ 4枚、スリング 4本 (除個装)  
 キックロケット #0,5: 0.75 x 1ヶ #1,2: 3 x 2ヶ #3,5: 4 x 1ヶ  
 (他、オアセオプレス、タツ等あってもいい)

～アプローチ図～



県道135号線を黒森の「瑞穂山」と書いてある  
 看板で右に曲がる。グリーンロッジの看板を  
 左に砂利道を入れてゆく。この曲角まで黒森  
 から10分ほどである。右にテニスコートを見て  
 しばらく行くと植樹帯のために車止めがある。  
 ここから歩き、すぐに1本目の沢を渡り、しばらく  
 ゆくと2本目の沢に出る。右目前には新しくできた  
 橋があり、その下に「あぶないから入るはいけません」  
 という看板がある。ここから沢の右岸を登ってゆくと、  
 3分ほどで遊歩道に出る。あとはこの遊歩道を上  
 へ上へと登ってゆく。沢の右岸をでるだけ沢から  
 離れないようにゆこう。トレイルはいく通りがあるが、  
 等水管からか、「起点」という札からか、一番わかりやすい  
 だろう。沢沿いの道に出るまで少し迷いやすい。そこまで  
 出たあとは大丈夫。あとは明瞭な道をケルンもある。  
 また、夏は沢を歩いても楽しそう。ナメ電も簡単な  
 ようである。車止めから岩小屋まで40～60分。  
 岩小屋から正面壁へは15～20分。

## 縦走合宿

- メンバー：L 梶原恵（3）、宮西堅司（1）
- 期間：8月6日～8月20日（12+3）

8月5日（土）

12:20 上高地発	13:55 徳沢
13:00 明神	15:00 横尾

まずOBそして現役の皆様、サマ天の日に出発するという非礼申し訳ありません。「なぜ3年にもなって縦走なのだろうか？」と考えながら歩いた。しかも、そのパートナは女の子ならまだしも、ムサイ男。これから12日間の旅路が思いやられた。

8月6日（日）

3:00 起床	7:00 カブト岩
4:10 出発	8:00 大曲
6:05 槍沢ロッジ	12:50 槍の肩の小屋

とりあえずこの縦走の差し入れの品物をご紹介します。

スイカ、グレープフルーツ、心太、アボガド、カルピス、缶詰、りんご酢、蜂蜜、苺、ビール、鍛錬棒（片手用）、ウイスキー（響）

差し入れてくださった皆様方、役に立ったものもあれば、何だこれはというものもありましたが、本当にありがとうございました。

上記のものを一年生に持たせる訳にもいかずに、独りで持てば、あつという間に50キロ。久しぶりに喘ぎながらひたすら槍を目指す。槍でスイカを食べる。二人でスイカ一個はきつかった。

8月7日（月）

3:00 起床	10:25 双六岳
4:00 出発	12:00 三俣蓮華岳
5:00 千丈沢乗越	12:50 三俣山荘
9:00 双六小屋	

双六を過ぎたあたりから天気が崩れ始めた。一昨年、昨年の悪夢が蘇る。二年とも雨に降られ通した縦走だった。三俣蓮華の手前で雷がなり、大雨に…。黒部五郎小屋まで行く予定だったが、三俣山荘に避難。明日からどうなるのやら…。

8月8日（火）

3:00 起床	12:25 上の俣岳
---------	------------



4 : 0 0 出発	1 4 : 0 0 太郎山
6 : 4 0 黒部五郎小屋	1 4 : 4 0 薬師峠
9 : 2 0 黒部五郎岳	

昨日の雨はただの夕立だったらしい。今日も雲は多いものの青空が見える。やはり黒部五郎のカールはいい。山頂でグレープフルーツを頂く。この日は前日の付けが回ってきて、行動時間が10時間を越える。1年生にはなかなか厳しかったようだ。薬師峠はなかなかいい天場である。

### 8月9日(水)

3 : 0 0 起床	6 : 5 5 薬師岳
4 : 0 5 出発	1 0 : 2 0 スゴ乗越
4 : 5 0 薬師平	1 3 : 5 0 越中沢岳
5 : 4 5 薬師山荘	1 6 : 4 5 五色が原

今振り返ってみると、この日が一番辛かった気がする。特にスゴ乗越からが核心だった。何故か雨も降りだし、越中沢岳の登りで宮西君が痛恨のルーファイミス。変な崖を命懸けのクライムダウン。「あー参った。」满身創痕で五色が原に到着。暗れていたら良い所なんだろうなと思いながら就寝。

### 8月10日(木)

4 : 0 0 起床	9 : 2 5 一ノ越
5 : 1 0 出発	1 0 : 3 0 立山(雄山)
5 : 4 5 ザラ峠	1 3 : 2 0 剣沢

昨日の疲れのせい、何となく体が重い。しかしそれも一ノ越で吹っ飛んだ。それまでのガスが晴れて、遥かの荘厳なる山々が見えた時に。ちょっと雄山神社の下界つぶりには驚いたが、立山連峰はいいね。ところで話は変わるがずっとこの日気になっていたのが、獅子岳、鬼岳、龍王岳の獅子岳は何と読むのだろうか？僕は「ししだけ」と主張するのだが、宮西君が「えびすだけですよ、かじさん。」とガラの悪い、ドスの利いた関西弁で言ってくる。ちょっと怖気づいてしまった。どうなのでしょう…？

### 8月11日(金)

3 : 3 0 起床	7 : 0 5 剣岳
4 : 2 0 出発	1 0 : 2 0 剣沢BC

今日は待ちに待った剣ピストンの日。久しぶりである、こんなにも軽い荷物は…。あまりにも軽い荷物に急ぐ宮西君をなだめつつ、あっという間に剣岳についた。さすが剣だけあって一般縦走路といえども、なかなか手強かった。帰りはのんびり写真なんかを撮りながら、BC帰還。剣を見て夏合宿へのモチベーションを高めつつ眠りにつく…。

この日剣山頂に差し入れの鍛錬棒（片手用）を残置。ちなみに鍛錬棒とは大木ポンドが、アイスクライミングのトレーニングのために開発した、大リーガーボール養成ギブスに勝るとも劣らないトレーニング機器である。そして、夏合宿で無事回収しました。

### 8月12日（土）

4:00 起床	8:00 雄山
5:15 出発	12:15 ロッジくろよん
6:10 別山	

今日は黒部湖に下山の日。これ聞いた皆さんは「あー、やっと下山か。」と思うだろうが、そこがこの縦走のバカな所。なんとまた3000の稜線に登るのである。その話は後にして、黒部湖はすごかった。何がすごかって、下界なんだもん。分かってはいたものの、僕ら二人は人間達から「山から熊が降りてきた」みたいな目で見られた。失望した僕らはそれまでの疲れをドット感じつつ、山に帰って行った。

### 8月13日（日）

5:00 起床	船待ち
6:00 出発	10:20 平の渡し
9:05 平の小屋	12:20 奥黒部ヒュッテ

いよいよ明日に読売新道が迫った。黒部湖の平坦な道を快適に歩くのだろうと思っていたら、大間違い。地図上では平坦でも、実際は細かいハシゴのアップダウンの連続。行程が短いから良かったものの、「ええ、ええ」と喘ぎながらようやく奥黒部ヒュッテに到着。

明日に備えて早くシュラフに入るが、暑さとオパチャン軍団のお喋りによりなかなか眠れずイライラする。「もうっ、いい加減にしてくれっー!!」

### 8月14日（月）

3:00 起床	14:05 岩苔乗越
4:05 出発	15:05 鷲羽岳
9:40 赤牛岳	16:00 三俣山荘
12:55 水晶岳	

とうとうこの日が来た。この縦走の核心、読売新道である。何が辛かって、荷物の重さでもなく、急な登りでもなく、宮西君の臭いオナラでもなく、それは「蚊」である。稜線に出るまで、ずーっと蚊ばかり。どこから湧いて来ているのかは解らないが、殺しても殺してもきりが無い。歩いていたらお構いなしで、刺してくる。「もう二度とここには来ない」と誓った。

読売新道ですごくいおじさんに逢った。同じくらいのペースで登っていたのだが、話してみるとこれがなかなかの豪傑である。年齢は50、単独で、テント泊。前日は扇沢から入山、

針ノ木峠を越えて針の木谷を下り奥黒部ヒュッテへ、そして今日読売新道を登り三俣山荘まで、明日は双六まで行き小池新道から下山するらしい。なぜだろう？なぜ、このコースにしたのだろうか？かなりのマイナールートである。内の弱い一年生より強そうである。何だかうれしかった。立山、黒部湖で下界の雰囲気が漂う、山だけど山らしくない所を歩いていただけに、同じ匂いがする人に、これぞ岳人という人に出会えた事がうれしかった。この人のおかげで、この日は乗り切れたようなものだった。

そして、鷲羽岳の山頂でウイスキーを飲んで、千鳥足で三俣山荘へ…。あのおじさんも30分後に到着。「いやー、すごい!!」と自分の30年後を考えつつ、驚嘆した。

### 8月15日(火)

4:00 起床	11:25 槍の肩の小屋
5:00 出発	12:00 槍ヶ岳
7:00 双六小屋	14:20 南岳
8:20 硫黄乗越	14:30 南岳小屋
10:20 千丈沢乗越	

昨日の疲れのせいで体が重い。あまりスピードにも乗れずに、だらだらと歩く。双六小屋で昨日のおじさんに会う。これから下りるらしい。また何年後かに山で会いたいものだ。「まだ同じような山登りをお互いやっているだろうか？きっとやっているだろう。」と思いつつ別れを告げる。

槍ヶ岳にはこの縦走の完成度を高めるために登った。もう何回登っただろうか…。もうゴールは目の前である。槍沢を下ればサマタはもうそこにある。その強い引力に後ろ髪を引かれつつ、槍から南下する。この縦走は穂高に行つてこそ意味を成すのである。西穂から下山してこそ。

### 8月16日(水)

3:00 起床	9:15 白出の科尔
4:00 出発	テント設営
4:55 最低科尔	10:15 出発
7:05 北穂高岳	12:10 前穂高岳
9:00 濁沢岳	14:30 白出の科尔

まだ日の昇っていない時間に南岳を下りきる。今年の春に歩いたが、あの時は辛かった。宮西君に必ず来年の冬に行こうと約束をする。鎖、梯子のひとつひとつに覚えがあり、寒気がした。

前穂のピストンはとんでもないくらいダルだったが、完成度を高めるためピストン!!

そして明日は最終日。明日が一番危ない所である。気を引き締めつつも、何とも言えない感慨が込み上げて来るのを感じる。なかなか眠りに就けなかった夜だった。

8月17日(木)

3:00 起床	8:55 間ノ岳
4:10 出発	10:00 西穂高岳
4:40 奥穂高岳	11:35 西穂山荘
6:15 ジャンダルム	13:00 上高地
7:45 天狗のコル	

今朝の日の出は、まるでこの縦走の有終の美を飾るようなものだった。思わず、山頂で写真を撮りまくってしまった。さすがに、日本最難の縦走路だけあって1年生の宮西君には厳しかったようだ。緊張のあまり、口数が少ない。僕は後ろで鼻歌を歌いながら…。間ノ岳の辺りは浮石・落石がともに多く注意が必要だ。

西穂高岳の山頂の前の小ピークで尺八を吹く男女に遭遇。「コンドルは飛んで行く」などを吹いていた。なかなか粋だった。そして、ついに最後のピーク西穂に着いた。「あー、やっと下山だー!!」といった感じ。梓川に出ると、妙に太陽がまぶしく感じた。最後まで晴天に恵まれた縦走だった。

最後に…

今年は2年が2人と言う事で、急遽3年の自分が縦走を出す事になった。しかし3年ともなれば、1年の時の不安や怖さ、二年の時の「連れて行くという緊張感」をあまり感じなかった。ただ、どっしりとした安定感で縦走に望む事が出来た。

やはり、縦走はイイ。自分は厳しい登攀よりものんびりとした縦走の方が好きだ。この縦走は天気も良かったし、いい写真も撮れたし、まさに言う事なし。100%満足である。

1年生の宮西君にはどうだったであろうか？君にこの縦走は、そして3年の私はどう映ったのだろうか？ まあ多少、暴君だったかもしれない。ちょっと付いて行けない部分もあったかもしれない。どう思っているにしても、この縦走を通して得たものがあつたはずだ。僕の目から見ても、君は成長した。来年はいよいよ2年生である。この縦走で学んだ良い面も悪い面も来年の自分の縦走に生かして欲しい。

最後に、差し入れをしてくださった上級生の皆様、本当にありがとうございました。他の縦走隊のみんなお疲れ様。

そして、相棒の宮西君、おつかれ。ありがとう。何より君と縦走に行けて良かった。「シホちゃんにヨロシク言うといてやー。」

3年 梶原 恵



# 縦走合宿を終えて 宮西堅司(会)

僕らの出発点はサマテンだった。ゴムボートでの川下りで死にかけたので、はやく山に行きたくて仕方がなかった。そういう意味でも、合宿に対するモチベーションについては問題なかった。

出発 12日間の行程がはじまった。本格的な縦走は今回が初めてなので、不安、楽しみ、恐怖、で頭がいっぱいでした。でも実際は、思っていた以上に、天候、体調、がよく、次々に行程をクリアーしていった。しかし、なんともいっても長期なので、中頃には、体力的にも、精神的にも疲れを感じた。そんな時いつもバックアップをしてくれたのがカジさんこと、梶原先輩である。毎日毎日、僕のケツを目の前にし、僕のペースに合わせて、僕の状態を気にしてくれていました。僕は、そんな先輩おかげで「やるぞ!!」という気持ちが増強しました。

山の思い出は、数え切れないくらいあるが、今回は、それ以上に二週間も三年のカジさんと一緒に過ごすことができ、いろいろな話を聞け、いろいろな姿を見ることができ、他の一年より、いい思い出ができた。他の一年には申し訳けないが、優位に立った気分です。今回の経験を生かし、僕も来年は、自分がこのようになれるようにがんばりたいです。

また、一年のうちには、もっとも、先輩について行き、話を聞きたいです。

最後に、僕達の合宿の成功のために、影で支えてくれた、上級生、OB、OGの方々には、本当に感謝しています。  
これからがんばるゾー →

# 縦走合宿

## 白馬～上高地

期間 8月3日～8月11日(9+3)

中村圭一(2)

佐藤祐樹(1)

矢野航(1)

8月2日

日高さんに送ってもらい、猿倉入り。小屋の真ん前でテントを張るが、主人の一言であえなく撤退。しかたなしに、テントを下に敷いて夜空を見上げ、途中主人の甘い言葉に惑わされながらご就寝。(風邪ひいたらあれだから、もうテント立てて良いよ)

8月3日

4:50	起床	縦走初日、うっ、差し入れが重い…
5:50	出発	白馬山頂で早速差し入れのゴザを敷き、スイカをほ
6:48	白馬尻小屋	おぼる。3人とも本気で爆睡。白馬のテントサイトで
9:08	岩小屋	でエグ悪魔の囁き、「今日はここまでにするか。」
11:50	白馬岳山頂	天狗山荘にて矢野、差し入れのビールで撃沈。
15:50	天狗山荘 T.S	危うく下山!?

8月4日

4:00	起床	今日は、最初の核心帰らずの剣、3人とも着実に
4:55	出発	進む。天場に早く着いたので差し入れのパイナップ
9:15	帰らずの剣	ルと、鯨の缶詰を食べる。
9:50	唐松山頂	夜飯は豪華にカニめし。この日3人の記憶からアボ
12:50	五竜山荘 T.S	ガドを抹殺する。

8月5日

- 3:00 起床 この日第二の核心八峰キレット。しかし、全然簡単  
3:45 出発 であった。5ヶ月ぶりに訪れたキレット小屋、そこ  
4:45 五竜岳山頂 には、きのこ？雪もなく、大量のウンコも無く良い  
9:00 八峰キレット 所であった。五竜山頂で見た御来光が縦走中一番き  
11:00 鹿島槍南峰 れいだった。この日の午後から雷が発生。そのせいで  
13:20 冷池山荘 で爺ヶ岳の山頂は踏めなかったのが残念無念。  
15:00 種池山荘 T.S 佐藤の誕生日会を開催。祝19歳！サトゥ男泣き

8月6日(日)

- 2:00 起床 今回の縦走で初の13時間行動。鳴沢岳手前で中高年  
2:55 出発 グループの渋滞に捕まる。蓮華の大下りで不審人物発  
5:10 新越乗越 見。アラビア人だと思われる良い人？であった。  
7:00 赤木沢岳 やはりこの日の午後も雷に襲われた。  
9:00 スバリ岳 3:30雷があまりにもひどかったので、フライを  
9:55 針ノ木岳 張ってしばし待機。  
12:30 蓮華岳 一年生は雨の中の登山は慣れていなかったのか、かな  
13:30 大下りコル リ歩きづらそうだった。天場はすごく良い所。  
15:30 北葛岳手前 縦走も後半戦に突入。  
17:30 七倉 T.S

8月7日(月)

- 4:00 起床 この日は、北アの中のブランクセクションの1つで、  
5:20 出発 この日、アキレス腱デスマッチ開催。  
6:10 船窪岳山頂 午後の天気の状態を見て、烏帽子から先はずっと稜線  
10:12 不動岳山頂 なので、これ以上進むのは危険だと判断して、  
14:00 烏帽子岳 野口五郎までは進まなかった。  
14:30 烏帽子 T.S



8月8日(火)

- 2:30 起床 午前中は快晴、快適な稜線漫歩を楽しんだ。  
3:45 出発 今日の行程は、水晶ピストン、雲ノ平に泊まれるとあり、意気込んでいたが、雲ノ平に行く途中雷が激しかったので、雲ノ平を諦めて三俣小屋に。  
6:30 野口五郎岳 神様の住む雲ノ平に行けなかった事はこの縦走で、最も悔やむ出来事だった。  
10:00 水晶小屋  
10:30 水晶岳  
14:00 三俣小屋

8月9日(水)

- 2:00 起床 この日は待望の槍に登れるとあり、皆疲れも忘れてとばす。あんなに小さかった槍がすぐ目の前、そして脚の下にあると思うと、人間のすごさにあらためてかんげき。  
3:00 出発  
7:00 双六小屋  
11:30 槍ヶ岳  
14:00 殺生ヒュッテ

8月10日(木)

寝坊…。2度目の寝坊…。疲れていた…。沈殿決定。  
後で思うとこのとき少しでも進んでいたらと、後で後悔する。

8月11日(金)

- 1:00 起床 前日の沈殿の時、後2日の行程を1日で行くか、予備日を使って2日で行くか迷った末、1年生の2人がどうしても行きたいというので、強行の策を取った。  
2:00 出発  
8:00 大天井岳 常念の登りで佐藤がいき、中村新道では矢野が呪われ、でも縦走のフィナーレを飾るには申し分無いほどよく歩いた。がんばって付いて来てくれた佐藤と矢野には、本当に感謝したい。ありがとう。  
10:00 常念小屋  
11:00 常念岳  
16:00 大滝山  
19:30 徳ごう峠  
20:45 上高地

## 夏期縦走合宿の反省と感想

2年生と1年生が2人ないし3人の10-11人を組んで10日前後の縦走に23日この縦走合宿においで。私、信州大山岳会1年生の矢野航は、もう一人1年生佐藤(お左トウ)と2年生、中村(おエグミ)と3人で3ヒアルゴ入 白馬岳～権傾岳～常念岳～北高地 8泊9日の縦走山行に挑んだ。

まず重い。30キロ台の後、夏合宿に比べれば軽いと言いきのたが初日白馬の大雪山においでまず、重いぞ、これは、と思った。三日と2ヒアルゴのこの長期縦走、1～100歩目位では「余裕やないの～」と繰り出す歩みに快適さを感じたけれど、アウ最後、下山107～と上高地の整備された道路により生じた「快適性」との2つでは、足車に「キセル構造」を形成した、端と端との間、長い部分、常にあったのは「重いな～」の感覚があった。(重いというより、ガツガツの構造上「痛い」のちう感じが正しいかも)。

臭い、という不満は実はなかった。恐らく科学的、あるいは客観的に観衆実験すれば「臭い」という結論が誤差なく出たであろうが、自分で自分の体を「臭い」と認識したことはなかった。

土の反省だが全体としては8日目の寝坊に「端を死体状態」と9日目、それを補おうと敢行した20時間縦走がある。それぞれ、足のゆがみと積重さの欠如が反省される。個人的には、金路、雪を固固すべく2時間程の長いヒアルゴで疲れと気が散漫になったことと反省している。

全体的には件も良く、天気も比較的思ってた自山行だったと認識している。来年は私がアキヒメをもち来た1年生、1年生を導くのだらう。今年おたに差し入れたい、たりしないように、飲んべいの1年生を連れ、2ヒアルゴになったが、飲んべいもさう。うん、それがいい。

# 縦走の感想

佐藤 祐樹

最高!! 縦走からは二月ほど戻りますが、様々な山々は今なお色あせてはいません。その場所、その時の光景がくっきり浮かんできます。中でも五童岳から見た御来光、白馬岳から見た槍ヶ岳、どの山をとっても、その山一つ一つの持ち味という特徴というが、言葉では語りきれないものがありました。まあツラかったことも多々ありましたが... 最終日の二十時間歩行はツラかったが、中村新道のところからとくに、あそこは途中の槍見台のところにお墓があってそこからかうと風景が変わるのである。そこから本島でいい。向かいました。本当に。

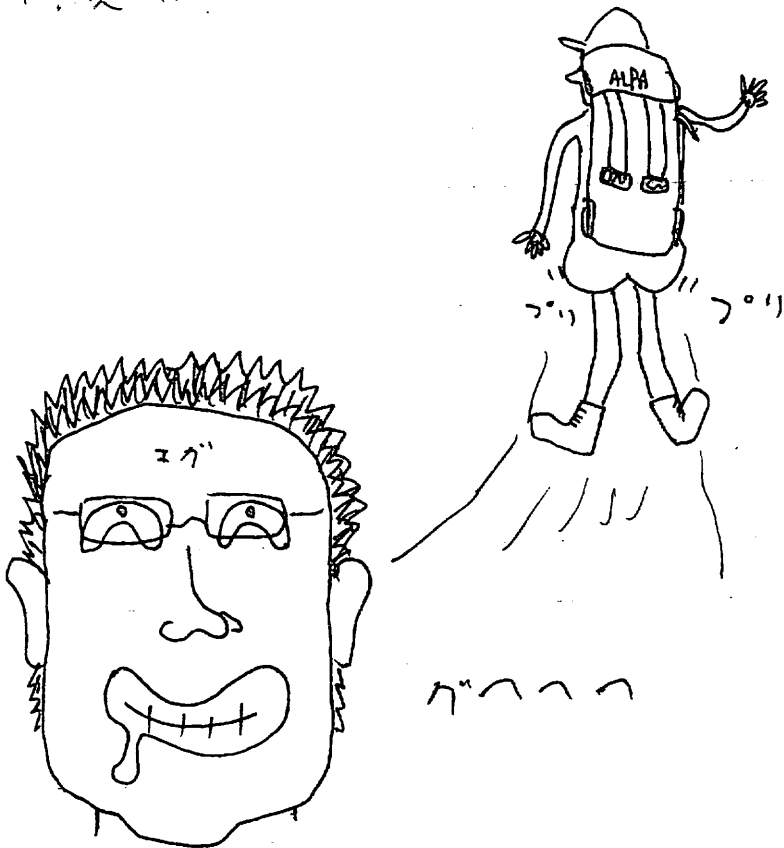
そういう恐れ、辛いときも合せて

縦走合宿は本当におもしろかったです。目

を覚えたことも思い出です... 通り過ぎがリアリティ

が、このかわい子ちゃんを見て興奮してるエグジ

スの顔...



縦走合宿 in 南アルプス

L.野川謙介 林勝也 山田和輝

8/2

16:00 BOX 発 林太郎さんに送られ夜叉神到着。宇多田ヒカルやサザンを聞きながら下界とのしばらくの別れ。  
20:40 夜叉神登山口

8/3

4:40 起床 重たい1日だった。行程的には大したことは無いはず  
5:45 夜叉神登山口発 ではあったが寝不足と重さで参ってしまい、辛い1日  
7:20 夜叉神峠着 となった。宇都宮高女は天使達のようなだった。オパちゃんビールありがとう。  
10:57 杖立峠(大崖頭山)着  
13:30 南御室小屋着

8/4

3:00 起床 縦走2日目。昨夜よく眠れず今日もまた苦しい1日と  
4:15 出発 なった。南御室にいた人達とも別れちょっと悲しい。  
6:32 観音岳着 夜から大雨が降り、テントが水溜りに浮かんだ。  
10:50 高嶺  
13:52 広河原峠  
14:42 早川尾根小屋

8/5

4:00 起床 今日の行動時間は非常に長かった。甲斐駒の登りは  
5:35 早川尾根小屋発 なかなかハード。山田が張りきっていたが、頂上下  
8:15 アサヨ峰 約10mで雷のため敗退。天気には勝てないです、ハイ。  
11:20 仙水峠  
12:50 駒津峰  
14:00 頂上直下約10m  
15:50 仙水峠  
17:45 北沢峠付近テン場

8/6 広島原爆記念日

4:00 起床 ご飯がしょっぱい!ペミカンの塩気が強すぎるのかあまり食事を  
5:20 テン場発 楽しむ余裕のない僕ら3人。  
10:05 仙丈小屋

11:05 仙丈岳  
15:00 伊那荒倉岳  
15:45 高望池テン場

8/7

3:00 起床 今日死を意識した1日だった。山登りには危険が付きまとうということを改めて思いしらされた。一人よがりではなく皆で力を合わせて登っていくことが大切なんだと思う。

4:10 暗いため待機

4:40 テン場発

6:38 野呂川越

11:35 三峰岳

12:45 農鳥小屋

14:45 農鳥岳アタック雷のため敗退

8/8

6:00 起床 今日北岳ピストンだけで終わらせるつもりだったので、朝もゆっくり6時まで寝ていた。1年は二人共歩慣れて来てとても楽しい1日となった。勿論言いました、北岳に来ただけ～。

7:50 農鳥小屋発

10:00 北岳山荘

11:00 北岳

14:10 農鳥小屋

8/9 長崎原爆記念日

3:00 起床 長い長い1日となった。1日こんなに歩き通したのは初めてではないだろうか。3時に起き、6時過ぎに行動終了。ハードだ。とても疲れた。明日は早めに切り上げよう。

4:40 農鳥小屋出発

7:16 熊の平

13:35 塩見岳

18:17 三伏峠

8/10

4:30 起床 昨日の反省全然生かされず結局今日も長い、長い1日となった。鳥帽子から高山裏までの歩行はとても快適でカナダに戻ったかのような感を受けるところだった。

6:00 三伏峠テン場発

11:34 高山裏小屋

16:05 荒川悪沢岳

18:15 荒川小屋

このくらいになって来ると天気のパターンが、定着して、朝晴れて昼から曇って夜は雨がお決まりになってしまっている。

8/11

4:30 起床 世の中には偶然という事が数多くある。それは60億  
6:05 荒川小屋発 という人間の人生が日々交わるにより起こってくる  
8:08 赤石岳 一種のサイモンテニエイションなのだ。今年私野川  
9:48 百間平 謙介は聖平小屋でカナダの高校の後輩に会うという世  
13:50 兎岳 にも不思議な coincidence を体験した。証人は山田と林。  
16:25 聖岳 僕はその後輩、道夫とカレーとビールを交わしながら、  
18:15 聖平小屋 懐かしい昔話に花を咲かせた。

8/12

4:30 起床 台風9号接近中。Alert!Alert!のため、茶臼小屋でしば  
6:05 聖平小屋発 し続行か敗退か悩む。結局高度を下げて横窪沢小屋で  
8:30 上河内岳 様子を見ることにした。連日ハードな行程が続いていた  
14:10 横窪沢小屋 したので良い休養になった。

8/13

4:30 起床 台風、雷、雨あられ。まさしく夏の風物詩たち達であ  
沈殿決定 る。「天気には勝てない」とは昔からよく言ったもので、  
あんなに騒がれた台風9号であったが、日本上空  
に現れた高気圧に押され、太平洋の彼方に消え去ると  
のこと。やってられませんな～。横窪沢 T.S で急避、  
サマ天開催。来年こそサマ天で遊びまくるぞ～。

8/14

3:30 起床 茶臼から光まで快適に歩くことが出来た。道も問題な  
5:06 横窪沢 T.S 発 し。光小屋のオジさんはとても感じの良い人だった。  
7:45 茶臼岳 ここで必ず深南部の様子を聞いておこう。  
13:50 光岳  
18:20 信濃俣山頂 T.S

8/15 終戦記念日

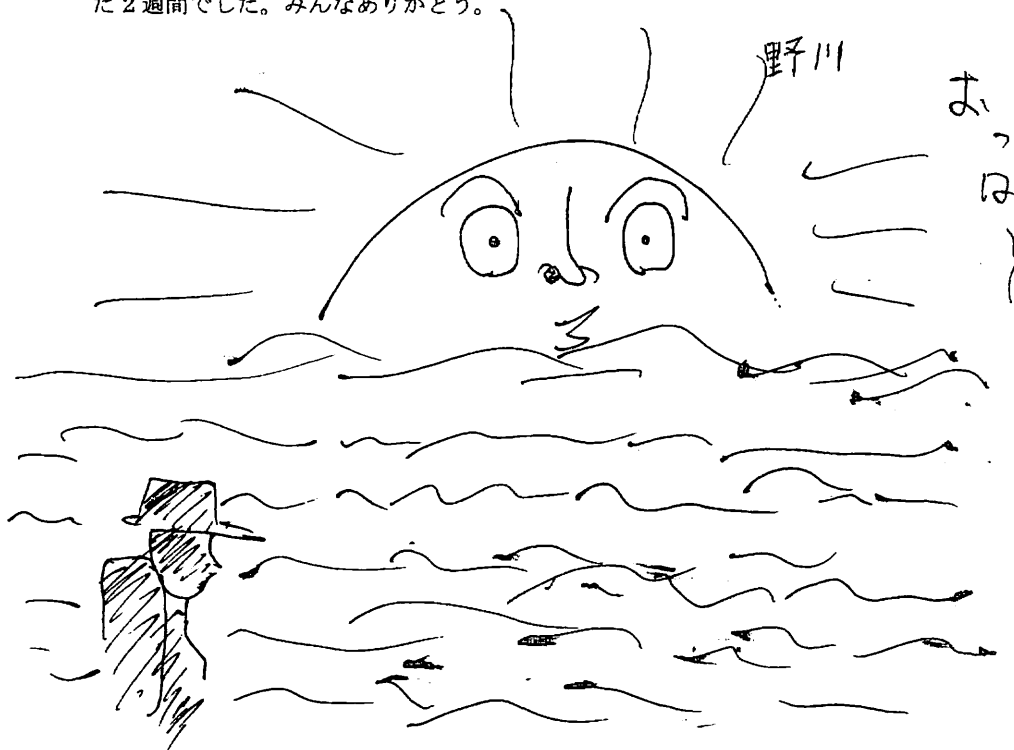
4:00 起床 雨。大雨。雷雨。昨夜からの雨のため今朝もテン場で  
6:30 信濃俣 T.S 発 足どめを食らう。行動中も2度大雨のため、ツェルト  
13:05 大根沢山 かぶってた。あ～頭に来る。大無間まで行くはずであ  
16:00 アザミ沢コル頂上 T.S ったが、雨と時間的問題からここで終了。

8/16

- 3:15 起床 出発時に暗くて道が分からないため、30分程トランプに興ずる。  
5:05 出発 幸運にも雨は上がり、下山日という事もありよいペースで歩けたと思う。田代では温泉に入り、2週間に及ぶ汗を流した。久々の長期山行、良い思い出となった。  
8:10 大無間山  
12:40 小無間小屋  
14:20 田代

おわりに

2週間を振り返ってとても充実した、自分の何かを変えた山行であったと思う。一時期は山を見るのさえもいやだったこの僕自身を山に再び惹きつけたのも山そのものであったと思う。そしてこの素晴らしい時間を共有した仲間達、林と山田。色々辛かっただろうし泣きたくなってくるような気持ちになることも多々あったであろう。けれどもこの2週間は僕らにかけがえのない何かを与えてくれたような気がする。たとえ進んでいく道は違おうと、一緒に過ごした時間をいつまでも忘れないでほしいと思う。とても、とても楽しかった2週間でした。みんなありがとう。





## 縦走合宿の反省

林 勝也

- 荒川岳でコースタイム二時間の所を三時間かかった。  
→ 体力不足。日頃からトレーニングし、十分な体力をつける。
- 出発が平均一時間半と遅かった。  
→ 準備、撤収等の手順が悪かったので、もっとスピーディに動けるようにする。
- 食糧が一部ぬれた。  
→ 食糧に限らず、実際に山で使う時の事を想定して準備する。
- 農鳥岳で雷雨に巻き込まれた。  
→ 死んでいてもおかしくない状況であった。可能な限り危険を避け、楽観的な判断をせず、慎重に行動すべきであった。

他にもちよとした事だが改善すべき点があった。しかし、そのちよとした事の積み重ねが大切であり、今後を一層努力したい。

## 縦走合宿の感想

林 勝也

終わって見れば短かく感じたこの縦走も又雨続きだった。実は新人合宿以来、岩以外の個人山行は全て雨が降っている。今回は朝晴れて、昼から震って夜は雨というのがパターン化し、雨が降る前に目的地に到着してテントを張るのが一日の最重要課題であり、雨の中の水汲み役を決めるツバリも一大行事であった。そういった中で、農島小屋に行いた時、震はあったが雨は降ってはいなかったのに農島岳をピストンすることにした。途中、雷鳴が聞こえて来たが近づいてこないかと判断し、その稜頂上に向かった。しかし、予想に反して雨が降り出し、遂に雷が鳴り出した。雷鳴までは2〜3秒とすぐ近く、いつ当たってもおかしくない状況であった。岩陰に隠れやり過ごした後、下に下りると小屋にも落雷したとのことで、改めて恐怖を感じた。山に限らず、普段の生活でも人間は自分だけは危険を目にあわないと思いがちである。しかし、事故は起きる。自分が起こさない為には可能な限り慎重に危険を避けるしかない。生きて帰ってこその山である。今後とも事故を起こさぬよう慎重に登りたいと思う。

## 上高地～穂高～槍ヶ岳

山行期間：8月5日～8月8日（実動3日予備1日）

メンバー：松茸林太郎

記録：8月5日 5：45起床～6：00サマテン出発～8：30焼岳小屋～11：30西穂小屋T、S

前日の夜にサマテンに入る。大変失礼なことをしてしまう。場を読めぬ行動すいませんでした。大学に入って独りで行く山行は初めてだったので非常に楽しみだった。コースもゆっくり行こうと思ったので日程に余裕を持った。5日前に歩いた焼岳への道を歩く。ゆっくり行こうと思ってもどうしてもペースが上がってしまう。上高地を眺めながら、西穂高への稜線を歩く。午前中には西穂高山荘に着いてしまった。先へ進むか迷うこともなく、テントを立てて一人ポーンとする。今回の食料は、肉と米を持っていかなかった。野菜とコンソメだけを持っていった。精進山行になったかな。

8月6日 4：00起床～4：45出発～6：40西穂高岳着～9：40奥穂高岳着～13：10北穂高岳着～15：50南岳小屋TS着

前日の午後に激しい雷雨とひょうが降ったので、早めに行動しようとペースを上げる。西穂高から奥穂高までの稜線は天気もよく360度のパノラマが楽しめた。しかし、冬が恐いだろうとも思った。スゲナーと思いながら先へ進む。奥穂高からは人がいっぱい。まったく危なっかしい人が多いな—と思いながら先へ進む。徐々に雲も出て来た。北穂の山頂に着くころには、ガスが一面を被う。早めにキレットを通過したいと先を急ぐ。北穂高岳山荘を過ぎて少し降りていくと大きな落石の音。「なにかや—」と思いつつ行くと、何とお婆様が足から血を流して倒れているではないか。そこにいる登山者は自分ともう一人だけ。もう一人の登山者は、軽い手当てをして、じぶんはこやに救助を呼びに行った。結局、お婆さまはヘリコプターでの救出となった。そんなこなしているうちに雨が降り始め、雷も鳴り始めた。一年の雷雨の中の縦走を思い出しながら南岳に急いだ。救急法は必要だと感じた一日でした。

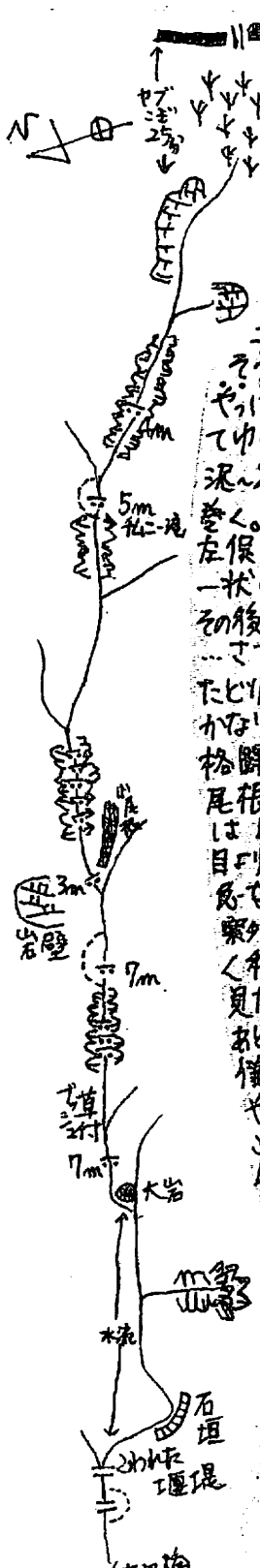
8月7日 5：00起床～5：45出発～8：00槍ヶ岳山荘着～10：30槍沢ロッジ着～14：30上高地着

朝から快晴。寝坊してしまい急いで出発。槍沢の下りは、走るようにして下る。槍沢ロッジに着くと長山協の百瀬会長がいた。高校のころお世話になったので挨拶すると、ビールをおごってくれた。そこからがペースダウン。いい気分がサマテンまでの平坦な道を歩いていく。たまには一人出歩くのも一興でした。

# 8/12 霞沢岳 / 上千丈沢 (1d 冬の偵察)

メンバー: 横山 勝丘 (3) 松奇 林太郎 (3)

上高地サマーテント - 朔行開始 - 7m滝下 - 尾根 - 稜線 - 霞沢岳 - サマーテント  
 615 650 845 || 900 1050 || 1115 1220 || 1230 1340 || 1350 1700



霞沢マニアになるにはとりあえず沢から一本と尾根(偵察上部の尾根)を兼ねて上千丈沢から目指した。結果は、一言でいえば凄む山行だったが、霞沢の良さ、奥深さを再認識し、山を満喫できた。また、冬に行く尾根も目途が立ち、とても収穫の多い一日を林太郎と二人で体験できた。

快適なサマテを出発。今日は天気は良い。しばらく車道を歩くと「上千丈沢橋」が現れる。ここから沢に入る。水はない。単調な滝沢から堰堤を2つ越える。実は今回、水はない決りかけ、沢シューズは持ってきてなかった。ところがどうも、水があらわれないではないか。ぬかに一ツと二人で懐る。つるつる滑る。ジグザグシューシュー。ここら辺の周囲はもうそんな岩壁で覆われている。しかし、沢はいたって簡単だ。しばらく進むとやっぱり水は消えた。銅沢沢のような岩質のモウシむすかい岩を快適に越してゆく。第1のゴルジュ(氷なし)を過ぎると7m滝。右岸はいやらしい単付。左岸は泥岩壁。直登しようとするか逆層がいやらしい。すこすこ引き返し、右岸を高登く。危険ではないか、スルスルすらすらでいやらしい。この滝を越せば「らく進むと一俣。左俣のゴルジュっぽい所をゆく。このゴルジュはなかなか面白い。快適に進むと、4m一俣の5m滝があらわれる。登って登れないことはないが、いやらしいので「右岸は高登。その後快適なゴルジュが続く。アッシュで突入。サマテまで25分で尾根について終了。...

さて、ここからが第2の目的、偵察である。実は今いるこの尾根を登りたいのだが、たどりついたら所の反対側は数百mの断崖である。こゝへ、尾根は明瞭。しかし、かなり危である。そして、果てしない「マツヤブ」こそ。霞沢はこれだ。「マツヤブ」の格闘は40分。左稜と右稜とのジャンクションにつく。ここからはブッシュの少ない尾根だが、なかなか高層感のある細いリッジが続く。2月に来たとき、この尾根はとて簡単か、そうに見えたのだが、夏は雪がないにもあるだろうか。見た目も簡単で、「ああ、今度の冬はなかなか面白そうだな...」と考えながら最後の急な登りへ。ここも下から見ると登るのはむずかしそうだが、左側の木を使ってゆくと、意外楽に登れる。途中、古いFIXがあった。この上は快適な尾根で、ほとんど稜線である。お盆だというのに誰一人あわない。速くを歩く2人の登山者を見ただけだった。山頂をレストして、八右衛門沢を下降する。最初は15分サマテ。おとはひたすら大量の岩屑ととも下のみ。林太郎が先行して、400mほど進んだら僅か行く。そんな感じである。途中岩が安定したしからは、大岩をぬがうにして、やっぱり、ただただ下のみ。沢の傾斜がゆるくなって、赤としたら左岸に林道が現れ、ここを下れば、車道に出る。この沢は雪の安定した時期に利用するには良いだろう。無雪期はあまりおすすめできない。車道をてくて歩いて快適なサマテへ帰った。

今回の沢は、沢を楽しもうと思っ、行くような所ではない。しかし、少し変わったこと、もしいと思ったらい、楽かも知れない。まあ、多分バカらしくなるでしょう。霞沢岳の沢を楽しみたいのなら、ワラビ沢か、産屋沢が良いみたいだ。マニアの道はまたまたである。さて、冬は4日間くらいで、今回の尾根を登ってみたい。去年みたいに、また簡単になってしまうか、もしないか(その逆かもしれない)。霞沢岳の野性の雰囲気を楽しみたいと思う。今から楽しみである。ワクワク。

P.S 稜線の夏道が10~20m間かくで赤テープがつかれた。全く必要ないので全部回収した。冬はどうせうもんでしょう。とても見苦しかった。できるだけこういうことはやめようと思いたいと思う。

## 穂高岳屏風岩雲稜ルート

山行期間：8月15日（実動1日予備無し）

メンバー：L松嵯林太郎（3年）岸本俊朗（4年）

記録：8月15日、3：30起床～4：10サマテン出発～5：20横尾着～6：30 T4取り付き着～7：30登攀開始～（先行パーティー多く時間待ち）～12：50扇岩テラス着～2：00敗退決定懸垂開始～4：30横尾着

今年の夏は天気が安定している。サマテンでのほほんとすごしていても刺激がない。と思つたら山に行くしかない。横尾までのアプローチにはチャリンコが大活躍。朝もやの中を駆け抜ける爽快感はたまらない。腰は痛くなるが、、水を補給して取り付きへと向かう。徒渉もたいしたことなく、T4基部へと着く。すると、先行パーティーがいる。そして、上部から何人も人の声が聞こえるではないか。聞いてみると、雲稜ルートには10人以上は取り付いているという。なんじゃそりゃ。お盆をなめていた。休みに麻痺している僕たちにはお盆も何も関係ないのだ。しょうがなく時間待ちをして、T4を登り終える。なんだかいやな予感を持ちながら。雲稜の取り付きに着いてみると、ルートには人がびっしり、僕たちの入り込む余地はない。岸本さんが人目を気にしながらキジうちをしていたのがおかしかった。1時間以上の時間待ちの末、岸本さんが取り付く。2ピッチ目は自分がリード。すぐ上に人がいるのでなんだかゲレンデのような雰囲気。3ピッチで扇岩についた。そこでおばちゃんにゼリーをもらったりして、1時間以上の時間待ち。この地点で敗退決定。残りの懸垂開始までの時間を次のボルトラダーのピッチを岸本さんがフリーで挑戦することにした。何回かの挑戦的なトライの末、4つ目のピンあたりの安定したところへたどり着く。見ているほうははらはらどきどきであった。そんな登りを目に焼き付け、時間切れとなり自分がアブミでしこしことヌンチャクを回収して、懸垂へと移った。せっかく期待していた初めての屏風がこんな形で終わったのは残念だった。教訓お盆は山に行くべからず。夕暮れの中、サマテンにチャリを走らせる。

8/16.17 穂高岳屏風岩/雲稜ルート・東壁ルンゼルート

8/16 サマ天 - 横尾 - T4尾根取付 - 雲稜取付 - 終了点 - T4取付

メンバー: 横山 勝也 (3), 中村圭 (2)

サマ天から自転車で行く。途中パンク。T4尾根は50m1PでOK。快通。雲稜取付につくと、夫婦(?)パーティが取付こうとしている。ああ後続かやあ?と思いきや、その方は5mほどいった所でセルゲイと知り、お先にどうぞ!と言ってくれた。ありかてえ。1P中村リード。セツは攻撃的だった。時折半国人かと思ってしまうほどの叫び声巨額がなからオールフリー。下でビレーの僕は、夫婦と「あいつうるさいですわねー。」「ハハ、元気があっていいですねー。」などと会話しながら、とてきはすかしかった。2P横山リード。最初の一歩がいやらしいが、フリーでこえる。途中1人四方の岩がうごく。昔から言われていたらしいが、まだおちないのか...。僕は20mほど動かした。これからゆく人は充分気をつけて下さい。特にそこは屈曲部にあり、下手すると、ロープの三角巾で動かしてしまうので!慎重に。3P中村リード。アグミの人工。単調だが井通だ。4P横山リード。50mざりザリのはず。ルンゼは意外にやらしい。1ポイントA0が入りました。5P中村リード。快通なスラッグ。終了点で2人握手。あというおた。今回の中村はかっこよかった。回ルートを懸垂下降し、1人づつ押出して中村と別れ、一人ブレイクアウトアグミ以外の世界へ。エスとなる。セツが活動しはじめる前に...

8/17 ルンゼ集合 - 東壁ルンゼ取付 - T3 - 終了点 - T2 - 横尾 - サマ天

メンバー: 岸本俊朗 (4), 横山 勝也 (3)

ブレイクアウトは大した事なかった。今日は東壁ルンゼ。下部は単調なアグミだが、ロケーションは抜群。T3から上はとにかく傾斜がすごい。上部1P岸本リード。下部のフリーはなかなか面白い。その上のハングはアグミで、右をこえビレ点へ。ここはかつてフリーでこえていたらしいが、足下が切れおち、非常に高度感がある。2P横山リード。初のA2。垂壁は単調。ハングはルーフになっており、ルーフにはリングなしボルトに結びのかかっているのと、下むきのハーケンが打ってある。下むきのハーケンがこわくて、細引から一気に抜けたらボルトにゆく。体がクルクルと回りながらの動作は疲れる。残置ラフがあった。3P岸本リード。途中のルンゼはフリーが大変面白い。IV+快通なり。岸本と2人でうなずく。4P横山リード。このルンゼも今一状態。フリーが面白いが、岩がもろいので注意。5P岸本リード。ボロボロの岩をフリー。1ポイントアグミ。記述よりも手前で切る。6P横山リード。記述にある5Pの下向トラバースは省略して、ビレ点から一段上がって真横にトラバース。正規ルートとの合流手前で、キャロット#0.75とツツのエイト。上部の「へ」字ハングは、ハング中は下のA2の方がむずかしかったが、ここは抜けたかむずかしい。僕は、アグミ2台に体重をかけて、上の支点のシユリヅをとりかき、岸本は11ステップ状態から上の支点にアグミをかけた。いずれにせよ、なかなか楽しい。7P岸本リード。セツ。8P横山リード。樹林。東稜と合流。そのまま東稜を懸垂下降。東稜は支点がしかかっている、また、50mいっぱい下れるので、楽にすげやくおられる。おそくなって心配をかけた。それにしてもロープスケール600m以上というのは疲れる。また、A2というのモヤリ疲れる。しかし、A2も基本的にはアグミのかけかたなので、A1と大差はない。今回思ったのは、やっぱりフリー主体の方が楽しい。ということ。ともあれ、久々にへろへろになってサマ天にたどりついた。しばらくこのルートにはこないでしょう。二人とも。

## 北穂高岳 滝谷

山行期間：9月5日～9月8日（実動3日、予備1日）

メンバー：L松寄林太郎（3年）、岸本俊朗（4年）、宮西堅司（1年）

記録：9月5日、4：00ボックス発～6：10上高地発～6：50明神～8：24横尾～9：25本谷橋～10：46潤沢ヒュッテ～13：10北穂山荘T、S着

夏合宿の疲れが残っているようだ。是—是—いいながらだるいアプローチに行く。潤沢ヒュッテでは個人山行ならではお茶を沸かして飲む。天気もあまりよくないのでゆっくり休んだ後は飛ばしてテンバへと急ぐ。テンバは閑散としていて占領。これで、うんこはOK 滝谷に入る前に、北穂山荘に届けておくほうがよいということだったので、行ってみた。バイトのお姉さんがかわいくて幸せな気分になってしまった。

9月6日、4：30起床～ガス濃く待機～6：50出発～8：45中央稜取り付き～12：35登攀終了～13：10T、S着

起きるとガスの中。幸い雨は降っていない。一度は外に出るものの待機する。徐々に空が明るくなったので出発した。取り付きのアプローチを少し迷う。ガスっているとわかりにくい。ドーム中央稜は、所々もろいところもあるが、快適なルートであった。5級が何箇所かあるが、実際のところ4級上ぐらいでは。晴れていれば展望は抜群だと思う。おすすめ。標高が高いだけに寒いが。それにしてもこの日の炊き込み御飯はうまかった。

9月7日、4：30起床～5：30出発～6：10ドーム北壁左ルート取り付き～8：45登攀終了～10：23穂高岳山荘～12：54岳沢ヒュッテ～14：20上高地  
今日は天気がよい。だけど燃料のガスが切れてしまった。チキンラーメンをぼりぼり食う。なかなかいける。ドーム北壁まではテンバから近い。本当に近い。左ルートは、2ピッチで最初のピッチが人工だ。ピンがかなり不安定。ナチプロが非常に有効だ。景色はよく、笠ヶ岳方面が絶景。滝谷はドーム周辺は、岩が安定している。夏合宿後にはおすすめだと思う。帰りは、穂高の稜線マンコじゃなくて漫歩を楽しみながら岳沢に下って行く。それにしても、上高地の人が多くて多いこと多いこと。

北アルプス / 穂高周辺 (9/11 ~ 9/13)

Xメンバー: L 横山 輝生 (会3), 林 勝也 (会1)

11日 (大雨) Box 乗 6:00 ~ 上高地 8:45 ~ 横尾 11:25 ~ 涸沢 2:20

前日まで晴天続きだったのに何故かこの日は朝から雨。しかも台風と前線の影響で注意報、警報が出たり。行くか迷うが、いよいよ横尾まで行こうというので、2人とも傘をさして出発。横尾まではおれ道う人は9割とも人の背中を見ることは一度もなく、ちよとさびしくなる。

横尾に着いた時点で、おじいパンツがぬれ始めていたが涸沢まで上るというので、このまま行く。途中水たれ何数、予期せぬ小川もあり、汗シャツがぬれしくなる。日たれの中上高地をさびろ歩き、雪のない涸沢を踏みつづけるはずだったのに。雨じゃ涸沢走りもできぬよ。

12日 (やはり雨) だらだら沈殿

昨今は雨が降り続け、警報も解除されず。この日は沈殿。テントの中はビショビショで、至る所に水たれができていた。林は水たれと格闘していた。ラジオで雨に降る下果の荒れ、おりを聞きながらいたずらスリをかける。明日もこんな調子なら奥穂、涸沢岳をピストンしてささて下りようというこして寝る。シラフもパンツもビショビショで、久しぶりの雨の中の山だった。

13日 (奇跡の晴天) 起床 4:30 ~ 出発 5:45 ~ 奥穂 8:30 ~ 涸沢 11:40 9:30 ~ 天狗のこし 11:10 ~ 西穂 1:30 ~ 山荘 3:15 ~ 上高地 5:00

朝起きると星が輝いていたので、気分良く出発。朝日のまぶしさを隠しながら初秋の涸沢を昇る。なかなか良かった。

天気は快晴で人も0。二本は焼岳まで行くしかないので、思っていたが天狗の頭以降のLP downが予想外にきつ時間をとられてしまった。

帰りの最終バスが 5:30 というこして、ガソリン勝負は過ぎて焼岳を歩きながら上高地へ下山。早出しかけたのがちよとくやまれた。

しかし、林は西穂へ行けたこして満足気だったので、まあ、Xメンバーのきいたいい山行だったと自分を納得させた。

やはり天候には勝てない。

それにしても雨のあとの甘味は良かった。

こども役は、たんと松本指定ゴミ袋 (か、い、か、ん)

おれ道う。





# 北岳バットレス

山行期間：9月17日～9月20日（実動3日、予備1日）

メンバー：L、松寄林太郎（3年）、梶原恵（3年）、横山輝生（3年）、野川健介（2年） 矢野航（1年）

記録：9月17日、6：30起床～7：00ボックス出発～10：30広河原～13：40白根御池小屋 t s 着

OBの百瀬先生が北岳に登るついでに車を出してくれるということで、お言葉に甘えて、乗らせてもらう。下道で行くつもりであったが、百瀬先生が高速代を出してくれた。そして、サービスエリアでは飲み物までおごってくれた。本当に、臭い人間とザックを乗せていただきありがとうございます。白根御池小屋までは残念ながら雨でしたが、百瀬先生とごいっしょに楽しく登れました。また、T、Sではビールをおごっていただき、ありがとうございました。また、ごいっしょに山にいけたら嬉しいです。

9月18日4：00起床～5：00出発～6：30取付き～17：30T、S着

昨日とはうって変わって天気がよい。梶と野川は、Dガリー奥壁にノックと矢野は4尾根に取付く。自分は、OOがメットを忘れて一人ベースでオリンピックを聞く。矢野しっかりしろ。

9月19日4：00起床～5：05出発～7：10取付き～9：00ピラミッドフェース取付き～3：00登攀終了～3：40北岳山頂～17：20T、S着

今日も秋晴れ。野川、松寄、梶原、横山でピラミッドフェースを登る。核心はなかなか渋かった。頂上では、南アルプスの絶景に、冬を思い浮かべてか、野川君は気持ちを高ぶらせて喜んでいました。T、Sには遅く着いたので、もう一晩白根御池で泊まる。

9月20日4：00起床～5：20出発～7：40広河原着

この日は、芦安の温泉、シャトレーゼ経由で帰ったことは言うまでもありません。北岳の頂上には宝がある。

本チャンは登れるときに思い切り登っておく。そのためにも、日ごろの岩トレは重要。次の動作が自然に出るくらいなシステム、登攀技術をしたい。



# 事故報告書

場所：北岳バットレス / Dガリーの大滝

日時：9月19日 AM 9:00頃

メンバー：横山 輝生(会3) 11人、矢野 航(会1) 1人

行動計画：Dガリーの大滝～千尾根主稜

## 事故の概要

Dガリー大滝において、横山がリード後、矢野がフォローで登る。矢野より「ザイルがらん」のコールがあり、左に巻くルートを登り途中で判断。その後しばらくして、急にザイルがひかれ、テンションがかかる。同時に「下サレ」という音が生じたので、矢野が落下したことに気づき「大サカ」とコールをかける。すぐに矢野からのコールが返ってきて、しばらくして矢野がビレイ点にたどり着いた。(くわしくは矢野の事故報告書にて。)

## 事故後の対応

矢野がビレイ点に着いた後、ケガ、精神的状態を確認した。肩を打た以外ケガもなく、比較的落らついていたが、この時岩トシを事前にしていなかった事も含み、この事について明日再び登るか本人と相談する。矢野の登りたいという強い意志と、ケガの無いことを、ルートの難度から判断し、継続する事を決定した。その後、矢野の状態を見ながら登り続け、PM 4:30に終了した。

## 事故の原因と対策

原因としては特に矢野の気のゆるみが上げられる。取付での緊張感のなさ、岩トシを事前にせずに登ろうとした事等、本陣に対する姿勢の甘さが目立った。もう一つはパートナー同士の意志疎通が不十分であったことだ。これから一緒に登るという意志の統一が欠けていたし、自分も、と矢野の状態に気を配り、ケアするべきであった。今回の事でザイルを組む機会が少ない者としては事前に岩トシをする必要性を感じた。又、慎重に登る者同士の意志統一の欠落も強く感じた。矢野にケガがなかったのが幸いで、今後矢野には自分にも山に対する厳しい姿勢が求められる。

横山 輝生

# 北岳バットレスにおける事故報告書

±平成12年9月19日、北岳バットレス下部岩壁において滑落事故が発生しましたので報告します。

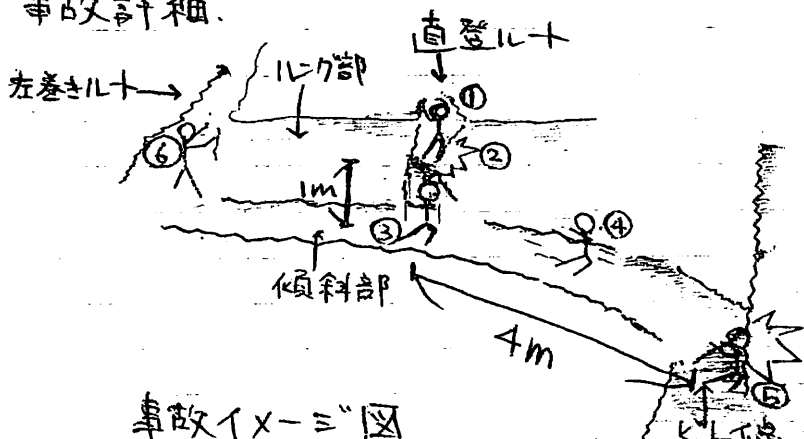
## 事故概要

9月19日9時頃、場所は北岳バットレス下部岩壁取付部において信州大学山岳会1年矢野 勇太(20)が登り中に足を滑せ、1m下の傾斜部に滑落。そのまま4m程を後3向せにフラフキながら後退、ピライ点で背中と頭をぶついたら停止した。

## 事故後の処置

当事故において矢野は背中と頭部の一部を打撃したが、頭部の方の打撃は軽度であり、またヘルメットを着用していたため、問題無いと判断した。一方背中は肩の部分を強く打ち、直後は少しビレを感じ、筋肉に強い痛みを感じたが、骨や筋肉を損傷した様子はなく、手や腕の動きにもまた問題がなかった。そのため判断して登りに継続が可能と思われたので登りに再開し、そのまま北岳頂に着きその後B.C.の御根御池下5.5に戻った。他喜会員との連絡は、当初「リード」の山岳会員の横山と無事の確認と登りに継続の意思の伝達をし、確認した後、~~北岳~~当山行パーティの他会員とモトラニールにて報告、確認をした。

## 事故詳細



- ① ハング直登ルート登りに開始
- ② 足を滑らせ滑落
- ③ 1m下の傾斜部に着地
- ④ 傾斜部を4m程、後3向せにフラフキ
- ⑤ ピライ点で背中と頭を打ち、停止
- ⑥ 左巻ルートを確保し再開

事故イメーシ図

事故発生場所の「ハング」部には直登ルートと左巻きルートが  
あり、直登ルートの方が難易度が高かった。直登ルートの  
足場は一枚の岩が斜めに切りとられたような所があり、その  
両足支の間に同時に滑る。傾斜部着地までの滑落の時間「落ち  
た」のコールをするがリードに届かず、そのまま着地、コールが届き  
ずには「フニ」がかかると期待したため腰に体重のせいで  
「フニ」のないためそのまま背中からフラつきながら傾斜部を  
通過。そのままヒールポイントに到達、背中と頭を倒壁で打ち  
停止。打撃部の様子を確認後、リードと無事と登りに  
継続の意思を確認する。確実な左巻きルートに登  
りに再開する。

### 事故の反省

事故の直接の原因は難しいルートにおける、足場とホールドの  
不安定な部分での両足で滑ったことである。この事に対する  
二次的な原因のひとは、難易度の高いルートを選んだ事判断  
のミスである。先行の上級生が一度このルートを試みた後、左巻  
きルートに変更したにもかかわらず、最下級生の矢野が直登ルート  
を選んだのは正しいとは言えなかった。いまひとつ登木が判断  
して滑ったという体の不調があった、これは岡山県会に決まされ  
た本ヶ丘への岩トレに矢野が行ったことが原因であった。  
また次に滑落距離短縮をかけた原因として「落ちた」のコールが  
小さくリードに聞こえなかったことがあり、二本の反省として第一に  
本ヶ丘への岩トレに必ずしも必要なく、本ヶ丘の危険性が  
無視大であることと考慮し、やってみようという種類の理由づけを  
徹底する。適度な慎重さを知る。また滑落時に充分量の  
コールができれば準備をしておくことが必要である。

### 最後に

その後指摘されたことであるが私矢野は食の中心が甘い。  
当日もヘルメットとB.C.に志木君等のミスがあった。本ヶ丘への事故は  
その代償としては大きすぎる。当然死の可能性までが現実的であ  
る。今回その危険性を一瞬間見た。この実感をおぼろげに

屏風岩・雲稜ルート

メンバー：岸本（4）松寄（3）

日時：9月21日、23日

21日 昼過ぎに松本出発。4：15横尾着

22日 5：00起床～6：40T4取付き～2：00登攀終了～3：30下降終了  
～4：30横尾着

前回、8月のお盆の時は大渋滞に巻き込まれやむなく時間切れでひき返したが今回は他のパーティーもいなく静かに登攀を楽しめた。今回はオールフリーでトライしたわけだが、核心となる3ピッチ目は出だし1本目のペツルまでが難所でホールドが細かく痛い。数回のトライを重ねた末、出だしを抜けた後はすんなりと上部はオンサイトで行けた。上部はレストポイントもありそれほど難しくはない。ただ全体にホールドがわかりにくい。グレードはおそらく5・11ノーマルくらいだろう。その他のピッチは岩も乾いて落石もなく至極快適であった。

オンサイトできなかったことは悔やまれるがオールフリーでという目標は達成できてよかった。先輩のわがままに付き合ってくれた林太郎に感謝したい。来年は東稜・オープンロードを狙えるように精進したい。  
(記：岸本)



## 戸隠裾花川本流～九頭竜沢

メンバー：岸本（4）日高（4）松寄（3）矢野（1）

日時：9月24日・25日

24日（雨後晴れ）長野発～6:55入溪～9:45下部ゴルジュ～11:00高巻き～12:30T・S着

前日は1日中雨だった。朝のうちは小雨もばらつき増水が気になるころであったが幸い天気は回復するとの事で気象庁を信じて入溪した。案の定、川の水は茶色くにごり水量も多く水流も強かった。全体を通してのルートのコアである下部ゴルジュはゴルジュ最狭部まで言ってみるものの（そこは泳いで突破するのだが）狭いゴルジュに向かいから波が立っているような有様で泳げども一向に進まずその先の地獄谷出会い、魚止めの滝も増水により危険と判断し高巻きにした。高巻き道は尾根から尾根へのトラバースが非常にわかりにくく迷いやすい。マーキングはあるものの慎重なルートファインディングが要求される。おりくちは下部ゴルジュ奥の魚止めの滝のすぐ上である。魚止めの滝を覗いて見るがやはり増水が激しく高巻いて正解であった。そこから1時間ほど歩いたところをテン場とし午後は夕暮れ時まで皆で×××釣りに精を出した。（釣果11匹！）白米、味噌、海苔という簡素な晩飯であったが素朴な味わいが却って身に染みてうまい夜であった。

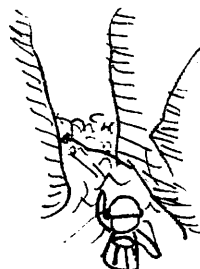
25日（晴れ）5:00起床～6:50出発～8:20奥魚止めの滝突破～10:25登山道～12:30戸隠牧場

この日は朝から秋晴れの青空に恵まれ快適な1日であった。奥魚止めの滝（10m）は前日からの希望で日高がトップでザイルを着けて釜に飛び込み滝の左側を登る。岸本、矢野、松寄の順で続き難なくクリア。そこからほどなくして九頭竜沢との二股に到着。九頭竜沢はザイルが出るようなところはなく上部は1メートル幅ほど高速道路のようなナメ床が続き快適。登山道までの藪ごぎは皆無といて言いなりに等しく水流の途絶えたところから五分ほど熊笹を分けていけばすぐに登山道へと抜け出る。登山道から見える高妻山は上部がわずかに秋色に色づき始め、美しかった。

\* \* \*

今回の山行は岸本が8月に地質調査のバイトでこの沢入り、予備知識があったことが前提にある。入溪に至っては十分な下調べを期待したい。通常の登攀具の他にナッツ、ハンドサイズ以下のカムがあると何かと重宝する。なお、戸隠の沢、雪稜などの記述は地元長野市の山岳会、「ロックアンドブッシュ」がかの地で活発な活動をしており山行記録はインターネットで入手可能である。

（記：岸本）



濁流・豪流、  
下部ゴルジュ

# 編集後記

大木 BOND

前回の報告書に続き、(何故か)十年の私が編集をさせて頂きました。気付いたことは、前回にも増してエレキが幅をきかせていること。何度も言うように、私はあの汚い文字の報告書が個人的には好もた。

他大学の報告書のようにきれいに製本までこれ、純度100%でワープロの文字、というのほ葉に見やすく、よいものだが、何とというか味がないというか、インパクトに欠けるというか...

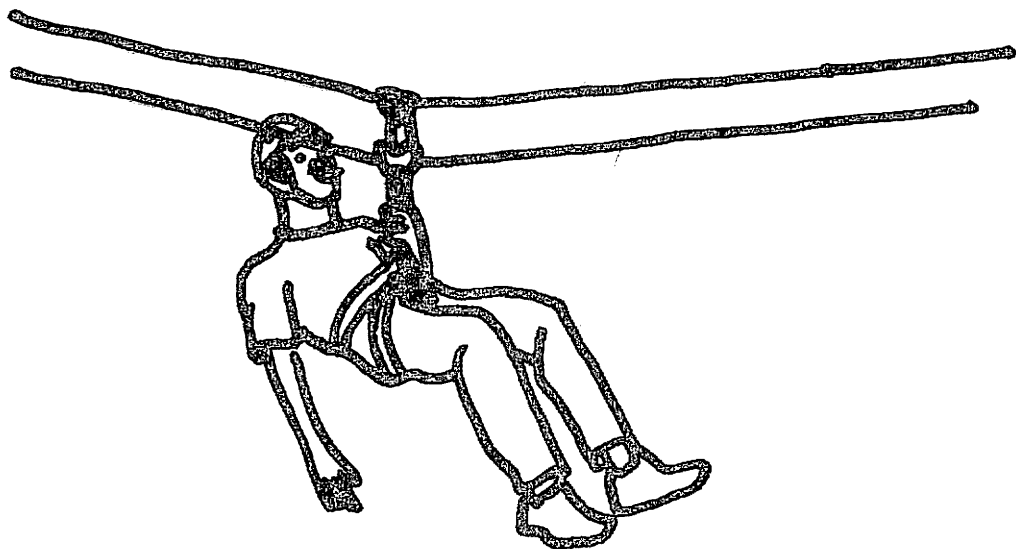
今回の報告書を編集する際、未だにバリバリ手書きと言わんばかりのシャボンボの原稿や、慰めにもきれいと言えないノックの原稿には好印象を持たずにはいられなかった。これからは手書きでがんばりましょう。

とはいえ、やっぱり報告書はおもしろいものだのう。  
これにしては、何と量が多いことか。山に行きすぎ!

2000.10.18. AM 7:30

😊大木は「編集後記」に今の今まで「へんしゃうごき」<sup>・</sup>と読んでいたらしい。や、ばかばか、がした...

岸本



STAC

編集：大木  
印刷：山松本